



上水中だより

小平市立上水中学校

令和元年5月8日

第2号

今を大切に生きる

副校長 植木 淳

令和2年3月22日（日）朝日新聞の「声」に掲載された福岡県在住の当時、中学3年生だった方の投稿です。

「コロナ世代」一步を踏みしめて

私の学校では12日、新型コロナウイルスの影響で短縮されてしまった卒業式がありました。ですが私にとって、一生忘れられない宝物となりました。

2月27日、急に発表された全国一斉の休校要請。私は、こんな田舎の中学校は休校にはならないだろうと思っていました。ですが次の日には臨時休校についてのプリントが配られました。

今後もあと1週間ぐらい続くはずだった日常が、安倍晋三首相の一言、いや目に見えない小さなウイルスのためにすべてかき消されました。この時「当たり前」が、かけがえのないものであることに気付きました。私は、急に悲しくなりました。一日一日を大切にしようと思いました。

全国の卒業生の皆さん、今日この時を大切にしていましょ。その空間もいつかはなくなっていきます。小さくて凶暴なウイルスが教えてくれました。この教訓を心に刻み、私たち「コロナ世代」は支え合いながら、明日への一步を踏みしめていましょ。

この生徒は、コロナ禍による卒業式の短縮によって、当たり前だと思っていた日常のありがたさを教えられたと言っています。今、この状況ではできないことがたくさんあります。しかしできることもあります。学校の当たり前を見つめ直し、今こそ、受け身ではなく、自ら考え、主体的に学びましょ。「大変」という字は、「大きく変える」と書くと聞きました。自分を、社会を変えるチャンスです。



始業式でご挨拶させていただきました。
1年間、お世話になります。

